

食品に関するリスクコミュニケーション～食中毒予防対策などを中心とした食品安全への取り組みについて～
(平成19年5月10日開催：仙台市)
アンケート集計結果

参加人数 65名
 アンケート回答者数 51名 回答率 78.5%

Q1 ご自身について、ご回答ください。		
1 性別		
1 男性	25	(49.0%)
2 女性	24	(47.1%)
2 年齢		
1 ～19歳	0	(0.0%)
2 20歳代	6	(11.8%)
3 30歳代	7	(13.7%)
4 40歳代	16	(31.4%)
5 50歳代	12	(23.5%)
6 60歳代	4	(7.8%)
7 70歳～	5	(9.8%)
3 ご所属		
1 消費者(団体を含む)	16	(31.4%)
2 生産者	0	(0.0%)
3 製造・加工業	7	(13.7%)
4 流通・販売業	5	(9.8%)
5 報道関係者	0	(0.0%)
6 行政関係(独法含む)	22	(43.1%)
7 その他	0	(0.0%)
4 本日参加された目的		
1 食品の安全性の問題に関心があるため	32	(62.8%)
2 国における食品安全確保に関する取組を知るため	24	(47.1%)
3 食中毒予防対策について知るため	25	(49.0%)
4 パネリストや参加者の意見を聴くため	18	(35.3%)
5 意見・要望を述べるため	1	(2.0%)
6 その他	1	(2.0%)

Q2 本日のリスクコミュニケーションの実施について、何でお知りになりましたか。		
1 新聞	0	(0.0%)
2 ラジオ	0	(0.0%)
3 雑誌、情報誌、自治体広報紙等	1	(2.0%)
4 ポスター又はちらし	1	(2.0%)
5 ホームページ	9	(17.7%)
6 所属団体からの連絡	33	(64.7%)
7 その他	6	(11.8%)

Q3 演者からの説明についてお伺いします。説明内容について、十分に理解することができましたか		
1 できた	12	(23.5%)
2 おおむねできた	36	(70.6%)
3 あまりできなかった	3	(5.9%)
4 できなかった	0	(0.0%)
SQ1 十分に理解することができなかった理由は次のどれですか。(当てはまるものを全て)		
1 用語など内容が理解しにくい。	1	
2 説明資料が見にくい。	2	
3 説明が聞き取りにくい。	2	
4 自分が理解していることとは異なる説明である。	0	
5 その他	2	

Q4 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。パネルディスカッション・意見交換での議論の内容等について理解できましたか？		
1 できた	9	(17.7%)
2 おおむねできた	34	(66.7%)
3 あまりできなかった	0	(0.0%)
4 できなかった	0	(0.0%)
SQ1 十分に理解することができなかった理由は何ですか(当てはまるものを全て)		
1 用語など発言の内容が理解しにくい。	0	
2 発言が聞き取りにくい。	1	
3 その他	0	

Q5 以下の設問について、〔意見交換会に参加する前〕、〔意見交換会に参加して〕で当てはまるものを1つずつ選んでください

1. 食中毒予防に関する国や自治体の取組について

〔意見交換会に参加する前〕

1 知っていた	27	(52.9%)
2 少し知っていた	16	(31.4%)
3 知らなかった	3	(5.9%)

〔意見交換会に参加して〕

1 理解が深まった	29	(56.9%)
2 変化なし	14	(27.5%)
3 わからなくなった	0	(0.0%)

2. 食中毒の原因（原因となりやすい食品等）及びその予防方法について

〔意見交換会に参加する前〕

1 知っていた	29	(56.9%)
2 少し知っていた	17	(33.3%)
3 知らなかった	1	(2.0%)

〔意見交換会に参加して〕

1 理解が深まった	36	(70.6%)
2 変化なし	10	(19.6%)
3 わからなくなった	0	(0.0%)

3. 日常業務や日々の食生活に今回の内容を活用できると思いますか

〔意見交換会に参加する前〕

1 とても思う	13	(25.5%)
2 まあまあ思う	31	(60.8%)
3 あまり思わない	1	(2.0%)
4 ほとんど思わない	1	(2.0%)

Q6 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。パネルディスカッション・意見交換において、自分とは異なる見解の発言はありましたか？

1 あった	17	(33.3%)
2 なかった	27	(52.9%)

SQ1 異なる見解の発言の趣旨は理解することができましたか。

1 できた	4	
2 おおむねできた	12	
3 あまりできなかった	2	
4 できなかった	2	

SQ2 発言の趣旨が十分に理解することができなかった理由は何ですか。

1 そのような見解に立つことが信じられない。	2	
2 そのような見解に立つ理由が述べられていなかった。	0	
3 その他	2	

Q7 本日のリスクコミュニケーションの進め方についてお尋ねします。

1) 良かったと思う点

パネルディスカッションがよかった。
 易しい言葉で分かりやすく解説され、しかも視聴者を飽きさせない工夫が随所に光っていた。またスライドの活用も大変適切である。
 コーディネーターのまとめ方が良かった。
 はじめての参加でしたが大変良く分かりましたし、来て良かったと思いました。色々自分なりに勉強していたつもりですが、より深く理解できたような気がします。これからもこのようなコミュニケーションをもたれます事を願います。
 事業者が消費者から信頼してもらえるためにがんばっていることが分かった。なるべく添加物を少なくというジレンマと保健衛生指導の行政の立場との間で苦労しているのが分かった。
 食品のゼロリスクについて強く説明していたのは良かったと思う。
 身近な食材例での説明
 安全・安心を求めることで、個人も、企業も、リスクを最大限抑えることが重要であることが分かった。
 色々な人(立場)の考えを聞くことができた。
 繰り返し同じような説明があり、聞き逃したことも再度聞くことができた。
 パネルが見やすかった。
 一部市民の方の見方が理解できて良かったと思います。大変共感を受けました。(法令遵守の問題だけではなく、考え方、意識の問題であるという点)
 品川氏の話が参考になりました。

2) 改善すべきと思う点

具体例を入れてほしい。例として原因が何でどう処置して経過報告及び結果(何日で退院した等)。より身近な問題として考えられる。
 もう少し時間をかけた幅広い論議があればなお良かった。
 取り組みの具体例をもう少し詳しく話してほしい。時間が足りない。
 一人あたりが話す時間が長く、段々と論点がずれていく気がした。
 演者一人あたりの持ち時間が短すぎる。時間に追われて早口になり、少しわかりにくい部分があった。
 参加者が少ないのを改善すべき
 流通、消費者側の取り組みについて講演がほしかった。From farm to table ならば、行政、学識者、製造者の説明にとどめるべきではなく、生産、流通の取り組みはどうか？
 意見交換の時間がもっと長いと良かった。
 ディスカッションの時間が短い。

法体系の説明をより簡易に

3人程度のとし、交流、意見交換に時間を。一般の方が理解しやすいものにしてはどうか。(ボリュームがあるので) 時間配分上もう少し配慮がほしい。気持ちは分かりますが詰め込みすぎです。

パネルディスカッション及び意見交換の時間が短くなったこと。

フロアからの意見がもっと聞きたかった。前半の話す人数が多すぎる。内容が重複しすぎでは。

ちょっと長い

パネルディスカッションの時間を多くして交流を増やしても良いと思われます。

主に消費者側の意見が出てきたが、一面的に感じられた。

はじめのプレゼンの内容が一部重複している。

Q8 その他、今回のリスクコミュニケーションについて、お気づきの点がありましたら記入願います。

消費期限の話が出たので食中毒との関連で疑問があるので1点だけ。消費期限を過ぎた物を食べて、食中毒になった場合、法的にはどうなるのか！近年文科省、農水省、厚生省とも基本法と名の付く法律が目につく。考え方としては分かるが、具体的な方向を国として方向づけるための方策が必要なのは？

規制ができていくのは良いが、それに甘んじてしまうと企業の向上意識が低くなるのかもしれない。システムに甘んじてしまう。ノロウイルスは本当に増えたのでしょうか。分析できるようになっただけではいか。

食品安全に関する知識をドッサリもらって驚いたり感心したり考えさせられたり大変良かった。衣食住のうち生命に最も大切な食に関して今後ともあらゆる角度からのタイムリーな情報の提供を期待している。

資料の写真部分が黒くなって分かりづらい。

大変ためになりました。これからも大いにお願います。大々的にやって下さい。

品川先生のお話は大変良かったです。今回は食中毒が主のようですが、これに平行して、輸入食品の防かびとか農薬とかについてもお聞きしたいと思います。消費者の1人として添加物の少ないものをと日常考えておりますが、添加物が多すぎて分からないものもありますので、色々勉強できたらと思います。輸入食料のうち、しいたけとかブロッコリーとかショウガ等なかなか購入をしない人が多いのですが、このような輸入食品の防かびその他についてもお聞きしたいと思います。

統計など内容がだぶっていた部分があるので、内容の事前の調整が必要では？一般向けをもう少し意識し、分かりやすい言葉で話してほしい。カタカナ言葉は使わない方がいい。配付資料は両面印刷してもらえるとかが減ってありがたい。無駄も減ると思う。パネリストは適した人物を選んでほしい。生協連の人は微妙です。

アンケート用紙、資料は両面印刷にすべき。資料の有効活用を。各法律で個別に定められている表示方法について一元化し、「食品表示に関する法律」を策定すべきである。

①今回のテーマかとはかけ離れていますが、日頃気になっていることについて述べさせていただきます。2年ほど前、東北から北海道で季節の食材であるホヤが店頭から消えました。売れれば日本の国民のことはどうでも良いという業者や取り締まる側の行政に驚きました。輸入先がどうして多量に必要なのか。種になるものまで出荷して逆輸入の時はもう健全ではないホヤだったという。私達が何もいわずにいることもおかしい。もっと危機意識をもってほしい。②時々報道される中国の食材について。有害である部分をもっと追求・情報公開してほしい。ちなみに私は中国の食材は(野菜等)買いません。日本は島国。まず自分の国を守ることを考えて下さい。逃げるところはないのですから。

食中毒の発生件数、データなどの説明が大半だったように思います。中毒を発生させないためにどうするのかという視点で、生産、食品加工、調理現場、食品の管理など、具体的な事例を提示しながら、予防、安全の取り組みについて語ってほしいと思います。

県内の市町村等からの参加が少ないようである。できるだけ多くの方(消費者団体、学校機関、保健福祉関係)への参加を要請してはどうか。生産段階の方は来ていないのか。

もう少し、時間が欲しかったです。(パネルディスカッション)

表示は細かくても全てを書くことが必要。消費者の唯一の判断方法であることをもっと認識すべき。

メモ用の机が欲しい。

もう少し用語を減らした方が良いのでは？説明・資料(パワーポイント)の重複が気になりました。次第3の発表が1人15分という尺は短いと思います。

印刷資料は可能な限り枚数を少なく枚数を少なく(両面、縮小印刷)された方が良いのではないのでしょうか。

パネリストの生協の方(消費者代表)が出席されてのゼロリスクを求める意見に対し、他のパネリストから、ゼロリスクはないという意見もあり、意識の差が大きい現状が理解できた。安心先行ではなく、科学的な安全性を踏まえた安心が大事だという言葉が印象に残った。